

2021 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会
議事次第

日 程 : 2022 年 3 月 16 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 15 (受付開始 : 13:20)

会 場 : オンライン会議

開会挨拶 オープンアクセスリポジトリ推進協会会長
 立教大学図書館長 森 聡 美

【議案】

- 第 1 号 2022 年度会長選出について (協議)
- 第 2 号 2022 年度監事選出について (協議)
- 第 3 号 2022 年度運営委員会委員について (協議)
- 第 4 号 会費規程の 2022 年度特例措置について (協議)
- 第 5 号 JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則
 の改正について (協議)
- 第 6 号 JPCOAR 活動方針 (2022-2026 年)について (協議)
- 第 7 号 2022 年度活動計画について (協議)
- 第 8 号 2022 年度予算について (協議)

【報告】

- 1) 2021 年度活動について (報告)
- 2) 2021 年度決算について (経過報告)
- 3) 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) への移行について (報告)

閉会挨拶

閉会

議案資料：

資料 1	2022 年度 JPCOAR 会長（案）
資料 2	2022 年度 JPCOAR 監事（案）
資料 3	2022 年度 JPCOAR 運営委員会委員（案）
資料 4	会費規程の 2022 年度特例措置（案）
資料 5	JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則の改正について（新旧対照表）
資料 6	JPCOAR 活動方針（2022-2026 年）（案）
資料 7	2022 年度活動計画（案）
資料 8	2022 年度 JPCOAR 予算（案）

報告資料：

報告 1	2021 年度 JPCOAR 活動報告
報告 2	2021 年度 JPCOAR 決算（経過報告）
報告 3	次期 JAIRO Cloud（WEKO3）への移行について

参考資料 1	2021 年度 JPCOAR 総会 議案・報告説明【会員限定】
参考資料 2-1	オープンアクセスリポジトリ推進協会会則
参考資料 2-2	オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程
参考資料 2-3	オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（2021 年 4 月 1 日施行）
参考資料 2-4	オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程
参考資料 2-5	オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度
参考資料 2-6	2021 年度オープンアクセスリポジトリ活動計画
参考資料 2-7	改正会費規程の 2021 年度特例措置
参考資料 2-8	通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則
参考資料 2-9	JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則
参考資料 2-10	次期中期戦略タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 2-11	次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 2-12	COAR community framework 検討タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 2-13	オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第 6 条に係る申合せ

オープンアクセスリポジトリ推進協会会長（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

青山学院大学図書館

（任期：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

以上

オープンアクセスリポジトリ推進協会監事（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

東京海洋大学附属図書館

福岡女子大学附属図書館

（任期：2022 年 7 月 1 日～2023 年 6 月 30 日）

以上

2022 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)運営委員会委員 (案)

氏 名		所 属 機 関 ・ 役 職	備 考
1	鵜澤 和往	北海道大学附属図書館研究支援課長	継続
2	木下 聡	東京大学附属図書館事務部長	継続
3	小野 亘	東京大学教養学部等図書課長	継続
4	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	継続
5	杉田 茂樹	京都大学附属図書館学術支援課長	継続
6	<u>西岡 千文</u>	<u>京都大学附属図書館研究開発室助教</u>	(退任)
	<u>佐藤 翔</u>	<u>同志社大学免許資格課程センター 准教授</u>	(新規)
7	尾崎 文代	広島大学学術・社会連携室図書館部図書学術情報企画グループリーダー	継続
8	結城 憲司	九州大学附属図書館図書館企画課長	継続
9	<u>古谷 陽</u>	<u>高知工科大学情報部長</u>	(退任)
	<u>一町田 学</u>	<u>青森公立大学教務学事グループ教務・学生チーム 主査</u>	(新規)
10	<u>鈴木 一巳</u>	<u>青山学院大学相模原事務部学術情報課長</u>	(新規)
11	折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	継続
12	原 修	立教大学図書館事務部長	継続
13	<u>川崎 安子</u>	<u>武庫川女子大学附属図書館次長</u>	(退任)
	<u>加川 みどり</u>	<u>神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長</u>	(新規)
14	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	継続
15	吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	継続

(任期：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

※継続予定の委員が人事異動等により委員を継続することが困難な場合、2022 年 4 月初旬までに文書による臨時総会で承認を得ることにより、後任委員を決定することとする。

会費規程の 2022 年度特例措置（案）

2022 年 月 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会総会決定

2021 年 4 月 1 日付けで改正オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（以下「改正会費規程」という。）が施行され、2021 年度は、2020 年度総会決定により「改正会費規程の 2021 年度特例措置」が適用されることで、基本会費（年額）の引き上げ幅の 5 割減額が行われた。

引き上げ幅の減額については、2021 年度限りの特例措置としたものであるが、新型コロナウイルス感染は、なお情勢の見通しが不透明な状況が続いている。このため、JPCOAR 全体が活動形態の急激な変更を迫られていること、また、感染流行による図書館等会員機関への影響を考慮し、2022 年度に限り「会費規程の 2022 年度特例措置」として、2022 年度基本会費（年額）を表 1 のとおりとする。

なお、「改正会費規程の 2021 年度特例措置」は 2021 年度末をもって、廃止する。

1. オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第 3 条第 1 号の基本会費は、2022 年度特例措置として次の表 1 のとおりとする。

表 1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	<u>23,000</u> 円
B	601 ～ 1,100 人	<u>46,000</u> 円
C	1,101 人～	<u>69,000</u> 円

JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則（改正案）

改正趣旨：共同リポジトリでの JAIRO Cloud 特別料金の請求先及び納入者を規定するための改正である。

新	旧
第 1 条～第 2 条 （略） （JAIRO Cloudの利用申請） 第 3 条 共同リポジトリ構築のための JAIRO Cloud の利用申請にあたっては、構成会員のうち一つを代表として申請する。 第 4 条 （略） （JAIRO Cloud利用料金等） 第 5 条 JAIRO Cloud利用料金は、<u>会費規程第 5 条及び第9条の規定により構成会員ごとに請求する。ただし、部局等のJAIRO Cloud利用料金は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。</u> <u>2 JAIRO Cloud特別料金は、会費規程第 6 条及び第10条の規定により、第 3 条による代表あてに請求する。</u> （JPCOAR会費納入） 第 6 条 基本会費及びJAIRO Cloud利用料金は、構成会員ごとに納入するものとする。 <u>2 JAIRO Cloud特別料金は、第3条による代表が一括して納入するものとする。</u> 附 則 この細則は、 年 月 日から施行する。	第 1 条～第 2 条 （略） （JAIRO Cloudの利用申請） 第 3 条 共同リポジトリ構築のための JAIRO Cloud の利用申請にあたっては、構成会員のうち一つを代表として申請する。 第 4 条 （略） （JAIRO Cloud利用料金等） 第 5 条 JAIRO Cloud利用料金及び<u>特別料金を請求する。会費規程第 5 条及び第6条の規定により構成会員ごとに請求する。ただし、部局等のJAIRO Cloud利用料金は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。</u> （新設） （JPCOAR会費納入） 第 6 条 基本会費及びJAIRO Cloud利用料金は、構成会員ごとに納入するものとする。 （新設）

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動方針（2022-2026 年）（案）

年 月 日

JPCOAR 運営委員会

■はじめに [展望]

インターネットの発展による学術情報流通環境は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の名のもとに本格的な革新のフェーズに入った。コンテンツのデジタル化、オンライン交流ツールの普及などにより、学術コミュニケーションは限りなくリアルタイムに近づくことになり、学術情報をめぐる環境の DXこそが、オープンサイエンスなどの新たな領域を切り拓いていくことになる。将来的には、世界中の研究者が、アバターをまとして VR 世界で一堂に会し、共同実験や議論を行うことが当たり前になるかもしれない。私たちは、新しい時代の研究環境に不可欠の基盤として、オープンアクセスリポジトリに基づく、学術情報の自由でオープンな共有ネットワークを確立し、加速する学術研究を支えていかねばならない。

■オープンアクセスリポジトリの役割 [ビジョン]

機関リポジトリは、学術雑誌掲載論文のセルフアーカイブの受け皿として生まれ、オンライン紀要の出版ツール、博士学位論文の制度的公表メディアとしても成長してきた。オープンサイエンスの広がりとともに、研究データの管理・利活用のための学術情報環境の整備が進むなかで、機関リポジトリには、さらに新たな役割を果たすことが求められている。

機関リポジトリを含むオープンアクセスリポジトリは、学術研究機関の情報発信をになう統合的ソリューションの中核概念である。そのネットワークは、教育や社会貢献なども含んだ学術活動を支え、同時に急速に進展するグローバルなリポジトリネットワークにあって我が国のプレゼンスを高める原動力となるべきだろう。

■オープンアクセスリポジトリ推進協会の活動方針

私たちオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)は、オープンアクセスを推進することによって教育研究などの学術成果をオープンにしていくことを使命として、「リポジトリを通じた知の発信システムの構築」(会則第2条)を推進する組織であり、3年間を計画期間とした中期戦略に基づいて活動してきた。2022年から2026年の5年間においては、3年間の成果をふまえて、活動の方針¹をさだめることとし、以下の3点を重点活動項目として、多様な会員機関の協働により、会員機関のコンテンツの充実支援、システムの整備・運用や我が国におけるオープンアクセス及びオープンサイエンスの推進をはかっていく。

¹ 前期は strategy の直訳語としての「戦略」の語を用いたが、JPCOAR の互助コミュニティという性格に鑑み、協調の方向性をより平易に「方針」として示すこととする。

■重点活動項目（2022-2026 年）[ミッション]

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成 <コミュニティ>

協会は、各会員機関が、個々の特性や置かれている状況に応じて細やかな情報交換を行い、その構成員に業務上必要な研鑽を積ませ、人材を育成していくことができるよう、その機会を創出する。また、協会は、オープンサイエンスに向けた先進的な取組事例(海外事例、類縁コミュニティや会員機関自身によるものを含む)の情報収集・共有化をすすめ、各会員機関が応用・活用できるようにする。また、国内外の関連団体との連携・協力をはかることにより、コミュニティを活性化する。

2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用 <コンテンツ>

協会は、会員機関のリポジトリが擁する学术论文や研究データをはじめとする多様なコンテンツについて、総体として、また、種類ごとに、収集・管理・保存のノウハウを共有する。また、各種識別子を含むメタデータの標準化や FAIR 原則への対応、流通促進を通じて、会員機関構成員の学術成果の普及・利活用を促進することにより、新たな成果につながるようなエコシステムの形成につとめる。

3. リポジトリシステムの維持・発展の促進 <システム>

協会は、主体的な運営者としての会員機関とともに、JAIRO Cloud を国立情報学研究所と共同運営する。また、会員機関の機関リポジトリが NII Research Data Cloud との円滑な連携を実現できるよう、国立情報学研究所との連携・協力を進めるとともに、会員機関の声を集約して提言を行う。

■活動計画

JPCOAR は、活動方針に沿って、重点活動項目を含む「リポジトリを通じた知の発信システムの構築」に資する活動計画を策定する。活動計画は、つねにフィードバックを行い、必要に応じて随時見直していく。作業部会及びタスクフォースは活動計画に基づいて事業、調査、研修などを実施し、総会において進捗状況を報告するものとする。

別紙

2022-2026 年度 JPCOAR 作業部会構成（案）

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針(2022-2026 年)(以下「活動方針」という。)の「活動計画」により、活動方針の「重点活動項目」に対応した 3 つのグループを設置する。

2022 年度については、6 つの作業部会と1つのタスクフォースを設け、以下のとおり、各グループに分ける。

各作業部会等に記載するタスク、課題である(ア)～(ウ)は、2022 年度時点でのものであり、今後はタスクに応じて、適宜作業部会等の設置、統廃合を行っていく。

作業部会の名称はすべて仮称。

1. コミュニティ G (グループ)

- ① 広報・普及作業部会
 - (ア) 広報誌
 - (イ) ウェブサイト
 - (ウ) 会員 ML 管理
- ② イベント運営作業部会
 - (ア) 研修(新任担当者、月刊 JPCOAR)
 - (イ) 図書館総合展、OAW ほか

2. コンテンツ G

- ① コンテンツ流通促進作業部会
 - (ア) JPCOAR スキーマ(改訂・メンテナンス)
 - (イ) DOI・ライセンス促進
 - (ウ) SCPJ
- ② 研究データ作業部会
 - (ア) RDM 教材作成
 - (イ) RDM 事例形成

3. システム (JAIR0 Cloud) G

- ① JAIR0 Cloud 作業部会
 - (ア) 利用サポート
 - (イ) 機能改善
 - (ウ) システム関連問い合わせ対応
- ② システム開発・連携作業部会
 - (ア) ワークフロー開発
 - (イ) コミュニティ・フレームワーク
 - (ウ) システム連携(GakuNin RDM 等)
- ③ 次期 JAIR0 Cloud 移行タスクフォース → 移行完了後、3.-①に統合

2022年度 JPCOAR活動計画(案)

グループ・作業部会(仮称)	2022年度活動計画
1. コミュニティ・グループ	重点活動項目: 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成 ＜コミュニティ＞
① 広報・普及作業部会	
(ア) 広報誌	広報誌「CoCOAR」を発行し、JPCOARの活動成果発信および情報提供を行う。
(イ) ML管理・ウェブサイト	ウェブサイト・SNSでの迅速な情報発信を行う。また、メーリングリスト(ML)の管理を行い、利活用を促進する。
② イベント運営作業部会	
(ア) 研修(新任担当者、月刊JPCOAR)	各会員機関の機関リポジトリ担当者が、機関の特性や置かれている状況に応じて必要な研鑽を積めるよう研修を実施する。
(イ) 図書館総合展、OAWほか	コミュニティ活性化を目的として、図書館総合展や地域単位のイベントプログラムを企画し実施する。
2. コンテンツ・グループ	重点活動項目: 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用 ＜コンテンツ＞
① コンテンツ流通促進作業部会	
(ア) JPCOARスキーマ(改訂・メンテナンス)	・研究データおよびデジタルアーカイブに対応したメタデータの標準化のため、JPCOARスキーマの更新を行う。
(イ) DOI・ライセンス促進	・識別子・ライセンスの調査結果に基づき、学術成果の普及・利活用を促進す
(ウ) SCPJ	・著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、論文等の収集・管理や流通促進のノウハウを共有する。
② 研究データ作業部会	
(ア) RDM教材作成	・国内のニーズに即したRDM教材の作成について検討する。 ・現行のRDM教材の利活用拡大の検討し、改善を実施する。
(イ) RDM事例形成	・機関向けRDMアンケートに向けて調査項目・調査方法について検討し、実施する。 ・AXIES-RDM部会等の外部機関と連携しながら、プロジェクト参加機関間の情報交換を推進し、RDMに関するイベント等を企画・実施する。
3. システム(JAIRO Cloud)・グループ	重点活動項目: リポジトリシステムの維持・発展の促進 ＜システム＞
① JAIRO Cloud作業部会	(活動開始は、JAIRO Cloud移行完了後となる。)
(ア) 利用サポート	□ JAIRO Cloudに関する参加機関の利用のサポートをする。 ・ JAIRO Cloudに関する機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
(イ) 機能改善	・ JAIRO Cloudに関する機能改善の集約方法等について検討する。
(ウ) システム関連問い合わせ対応	□ メーリングリスト等を通じて JAIRO Cloud 利用支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。
② システム開発・連携作業部会	
(ア) ワークフロー開発	・ 需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。
(イ) コミュニティ・フレームワーク	2022年1月アンケート調査結果を分析し、レポートする。 COARのフレームワーク見直しに貢献する。 次のアンケート調査に向けての準備を進める。
③ 次期JC移行タスクフォース	(移行完了後、3.-①に統合)
(ア) 利用サポート	□ 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。 ・ 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
(イ) システム関連問い合わせ対応	□ メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。

2022 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）予算（案）

<収入の部>

科目	2022年度 予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2021年度 当初予算額	備考
1. 会費	18,239,000	18,239,000	0	17,710,000	2021年度会員機関数: 684(1月現在) 区分A:607 x 2.3万円 = 13,961千円 区分B:45 x 4.6万円 = 2,070千円 区分C:32 x 6.9万円 = 2,208千円
計	18,239,000	18,239,000	0	17,710,000	

<支出の部>

科目	2022年度 予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2021年度 当初予算額	備考
1. 事務局経費	14,569,000	13,912,000	657,000	13,830,000	
(1) 事務協力費	9,500,000	9,400,000	100,000	9,500,000	事務協力費及び事務補佐員人件費※1
(2) 事務局運営費	5,069,000	4,512,000	557,000	4,330,000	窓口委託経費、会員コミュニケーションツール、その他
2. 運営委員会等経費	210,000	0	210,000	210,000	
活動費	200,000	0	200,000	200,000	運営委員会(3回)、企画調整会議他、旅費等
監事監査費	10,000	0	10,000	10,000	旅費（近距離）
3. 総会経費	410,000	384,000	26,000	610,000	
総会会場費	0	0	0	0	オンライン会議想定
総会運営費	400,000	374,000	26,000	600,000	オンライン会議運営支援
総会旅費	10,000	10,000	0	10,000	旅費（近距離）
4. 図書館総合展出展	450,000	436,000	14,000	400,000	オンライン会議運営支援
5. 部会活動費	2,600,000	1,387,000	1,213,000	1,550,000	
*研究データ作業部会	0	27,000	▲ 27,000	150,000	*:2021年度から継続または、2022年度新規設置
*コンテンツ流通促進作業部会	0	155,000	▲ 155,000	500,000	
コミュニティ強化・支援作業部会	0	0	0	200,000	
人材育成作業部会	0	1,205,000	▲ 1,205,000	700,000	
*広報・普及作業部会	0	0	0	0	
*イベント運営作業部会	0	0	0	0	
*JAIR Cloud作業部会	0	0	0	0	
*システム開発・連携作業部会	0	0	0	0	
*次期JAIR Cloud移行TF	0	0	0	0	
(一括)	2,600,000	0	2,600,000	0	
6. 国際連携活動費	0	2,120,000	▲ 2,120,000	1,110,000	
海外派遣旅費	0	0	0	0	
COAR会費	0	2,120,000	▲ 2,120,000	1,110,000	2022年COAR年会費は、2021年度予算で支払済み。
計	18,239,000	18,239,000	0	17,710,000	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

※ 1：「事務補佐員」の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、事務協力費の内訳は示さない。

JAIRO Cloud利用料金

<収入の部>

科目	2022年度 予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2021年度 当初予算額	備考
JAIRO Cloud利用料金	72,930,000	72,072,000	858,000	69,652,000	利用機関数：627(2021年12月現在)
計	72,930,000	72,072,000	858,000	69,652,000	

<支出の部>

科目	2022年度 予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2021年度 当初予算額	備考
JAIRO Cloud運用費	72,930,000	72,072,000	858,000	69,652,000	
計	72,930,000	72,072,000	858,000	69,652,000	

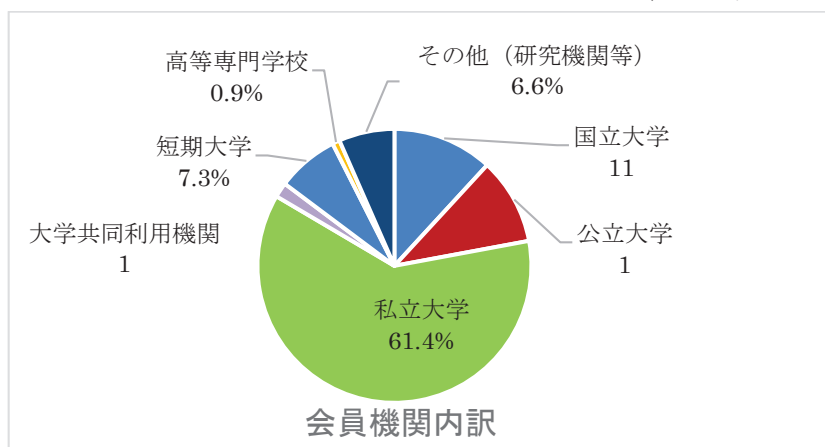
2021 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動報告

1. 組織・体制

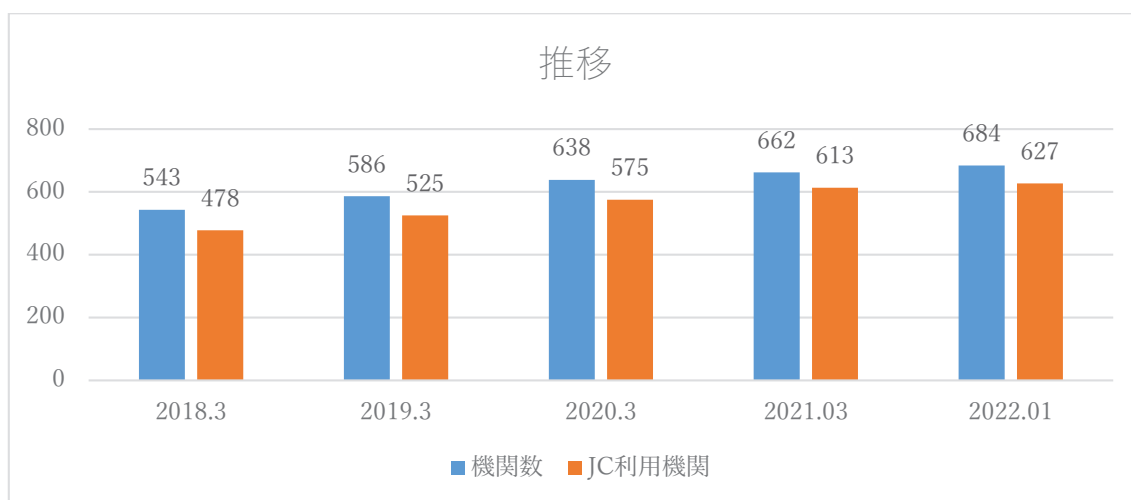
(1) 会員機関状況

種 別	機 関 数	JC 利用機関
国立大学	81	60
公立大学	70	67
私立大学	420	399
大学共同利用機関	12	11
短期大学	50	44
高等専門学校	6	6
その他（研究機関等）	45	40
合計	684	627

(2022 年 1 月 11 日現在)



2. 推移



(2) 運営体制

会長	立教大学（2021 年 4 月 1 日～）
監事	電気通信大学，群馬県立女子大学（2021 年 7 月 1 日～2022 年 6 月 30 日）
運営委員	14 名（会員機関選出）
作業部会員	50 名（会員機関選出）
事務局	3 名（会員機関から出向 1 名、JPCOAR 有期雇用 1 名、NII から支援 1 名）

3. 会議等

(1) 総会

通常総会

- ・2022 年 3 月 16 日に通常総会（オンライン会議・投票）を開催。

臨時総会

- ・2021 年度 JPCOAR 監事及び JPCOAR 運営委員会委員の承認（2021 年 4 月 26 日、メールによる審議）
- ・2020 年度決算の承認（2021 年 6 月 18 日、メールによる審議）

(2) 運営委員会 全 3 回開催

第 14 回（2021 年 6 月 4 日）

- ・2020 年度決算案及び監査結果について
- ・2021 年度 JPCOAR 会長・監事・運営委員会・作業部会（TF）・事務局の体制について
- ・「COAR community framework 検討タスクフォース設置に関する申合せ」（決定）
- ・2021 年度予算及び作業部会活動計画等について
- ・会費規程の検討について

第 15 回（2021 年 11 月 15 日）

- ・2021 年度活動中間報告について
- ・2021 年度予算執行状況
- ・会費規程について
- ・JPCOAR 活動方針(2022-2026 年)について
- ・2021 年度 JPCOAR 総会日程について
- ・2021 年度図書館総合展企画について

第 16 回（2022 年 1 月 26 日）

- ・2021 年度 JPCOAR 総会について
- ・その他

また、企画調整会議（5/21、8/25、10/11、12/27）を開催している。

(3) 作業部会のミーティング

- ・研究データ作業部会（2021年6月21日、12月13日、2月18日）
- ・コンテンツ流通促進作業部会（2021年6月17日、12月20日、2～3月（予定））
- ・コミュニティ強化・支援作業部会（2021年5月28日、6月30日、7月20日、8月20日、9月17日、10月18日、11月24日、12月17日、2～3月（予定））
- ・人材育成作業部会（2021年7月15日、7月30日、10月4日）

その他、作業部会下のプロジェクト及びチーム単位でのTV会議等を随時開催。

また、2021年度限りとして、次の3つのタスクフォースを設置した。

- ・次期中期戦略タスクフォース
- ・次期JAIR Cloud移行タスクフォース
- ・COAR community framework検討タスクフォース

4. 活動

(1) JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021年度に基づく活動

2018年度総会において決定された「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021年度」に基づき、作業部会は4つに再編され、各々担当する戦略とその活動計画に取り組んでおり、主な活動の概要は次のとおりである。

戦略1 オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取り組みを行う（研究データ作業部会）。

大学ICT推進協議会研究データマネジメント部会（AXIES-RDM部会）と連携して、RDM事例形成プロジェクトを実施した。2020年度に行ったRDMアンケート調査結果の共同分析として「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」を科学技術・学術政策研究所（NISTEP）と取りまとめた。これまで開発した研究データ管理に関する教材の利活用の拡大を図るとともに、次なる教材充実に向けて情報収集を進めた。

戦略2 オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する（コンテンツ流通促進作業部会）。

「次期JAIR Cloudコンテンツ登録アシスト機能にかかる事前アンケート」を行い、2022年1月～2月にアシスト機能の第3段階実証実験を実施した。2020年度に実施した学協会著作権ポリシーデータベース（SCPJ）のデータメンテナンス結果についてまとめた報告書を公開した。DataCite DOIの登録開始に伴うDOI管理メタデータ入力ガイドラインの改訂を行った。識別子・ライセンスの普及状況についての調査を実施、CrossRef DOIリストを会員・非会員185機関に配布しDOI入力を促進し

た。

戦略3 オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する（コミュニティ強化・支援作業部会）。

情報誌CoCOAR、JPCOARウェブサイト等での情報発信を行った。図書館総合展フォーラム「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスとJPCOARを考える」を開催した（参加者269名）。

戦略4 オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う（人材育成作業部会）。

オープンアクセス新任担当者研修（基礎研修）1回、学術コミュニケーションセミナー（月刊JPCOAR）（専門研修）4回を実施し、研修資料を公開した。2月、3月に更に2回の専門研修開催を予定している。

戦略5 協会の活動基盤を強化し、JPCOARのブランド力を高める（運営委員会）。

引き続き会員機関の拡大を図るとともに、会員からの専任の事務局員派遣を受け、事務局体制の強化・安定に努めた。COAR Asia OA Meeting（シンガポール・オンライン開催）で日本及びJPCOAR活動状況を報告するとともに、関連する国内の組織との連携を進めるため、学術情報流通推進委員会（SPARC Japan）へ委員を派遣した。

・次期中期戦略タスクフォース

協会のオープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度の終了に伴い、次期中期戦略の基本的な方針や取り扱い等を、効率的・集中的に審議し、運営委員会に報告する。

・次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース

協会が国立情報学研究所と共同運営する JAIRO Cloud について、次期 JAIRO Cloud への移行作業に伴い、会員間並びに JAIRO Cloud 利用機関間の相互支援を強化する。

・COAR community framework 検討タスクフォース

COAR が作成したリポジトリのフレームワーク “COAR Community Framework for Good Practices in Repositories” を用いて国内の機関リポジトリを評価・分析し、課題の抽出を行い、抽出された課題に対して、ポリシー及びシステムの両面から解決策を検討し、運営委員会に報告・提案する。

(2) 協会活動の概略

1) 国立情報学研究所学術情報基盤オープンフォーラム 2021 への協力

日程：2021 年 7 月 6 日～8 日

場所：国立情報学研究所

コンテンツトラック 1「次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 本番移行に向けて」

講演者として JPCOAR 作業部会員が登壇

2) オープンアクセス新任担当者研修 (オンライン開催)

1. 研修資料の公開 (9 月 21 日)

URL : <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000068>

2. 質問受付 (9 月 21 日～10 月 15 日)

3. スクリーニング (10 月 22 日) (申込み：111 名、当日参加者：97 名)

3) 学術コミュニケーションセミナー (月刊 JPCOAR) (オンライン開催)

第 1 回 学術情報流通の情報収集に役立つサイト紹介 (2021 年 10 月 19 日 (238 名))

第 2 回 チャプターレベルのメタデータ流通 (2021 年 11 月 17 日(187 名))

第 3 回 研究データ管理・利活用と NII 研究データ基盤 (2021 年 12 月 7 日 (205 名))

第 4 回 学術情報流通周辺話題 (2022 年 1 月 25 日 (167 名))

4) 第 23 回図書館総合展フォーラム

テーマ：「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスと JPCOAR を考える」開催
日 程：2021 年 11 月 19 日 14:00～16:00 (269 名)

趣旨：JPCOAR の活動内容や位置づけを会員機関と共有するとともに、コミュニティのあり方なども含めた JPCOAR の今後の方向性について議論する場とする。

5) CoCOAR 刊行 13 号 (2021 年 9 月) 14 号 (2022 年 2 月 (予定))

(3) 作業部会・タスクフォースの活動

1) 研究データ作業部会

- ・RDM 事例形成プロジェクト：科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) アンケート調査分析結果の打合せ (12 月 7 日)、AXIES 年次大会 RDM 企画セッションで取組を紹介 (オンライン) (12 月 15 日)、活動成果の取りまとめ (3 月 (予定))
- ・研究者向け RDM 教材作成プロジェクト：RDM 教材の修正作業 (2021 年 12 月～2022 年 1 月)、活動成果の取りまとめ (3 月 (予定))
- ・AXIES-RDM 部会との連携：AXIES が公開した「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」の参考資料 3「研究データ管理関連の用語集」を AXIES 研究データマネジメント部会と共同制作、第 1 回 AXIES-JPCOAR 研究データポリシー策定ワークショップ (オンライン) (9 月 28 日)、RDUF 公開シンポジウムライトニングトークでの報告 (オンライン) (11 月 22 日)、第 2 回 AXIES-JPCOAR 研究データポリシー策定ワークショップ (オンライン) (11 月 29 日)

2) コンテンツ流通促進作業部会

- ・ワークフローチーム：「次期 JAIRO Cloud コンテンツ登録アシスト機能にかかる事前アンケート」を実施（5月25日～6月10日）、コンテンツ登録アシスト機能第3段階実証実験（2022年1月～2月）
- ・SCPJ チーム：SCPJ データメンテナンス結果報告書公開（10月22日）、SCPJ ウェブサイトの英語化（予定）
- ・メタデータチーム：DataCite DOI の登録開始に伴う DOI 管理メタデータ入力ガイドラインの改訂（6月1日）、NDL のメタデータ作成者向けのガイドラインの策定に協力、これから委員会・NII・NDL との意識合わせ・枠組みの整理及び改訂方針の方向性の確認、「次期 JPCOAR スキーマ改訂方針（案）」を公表予定。月刊 JPCOAR 第6回（3月22日）で「デジタルアーカイブとメタデータ流通」報告（予定）
- ・DOI チーム：JPCOAR への加入有無と DOI 付与状況について調査（9月）、IRDB 調査結果に基づく CrossRef DOI リストを会員・非会員の機関に配布、DOI 登録の先行事例ヒアリング調査（12月～1月）、月刊 JPCOAR 第4回（1月25日）で「識別子・ライセンスの国内普及状況」報告

3) コミュニティ強化・支援作業部会

- ・CoCOAR 刊行 13号（2021年9月）14号（2022年2月（予定））
- ・協会ウェブサイト（日/英）、Facebook、twitter での情報提供および情報発信
- ・「オープンサイエンス関連の基本ドキュメント」を公開（7月15日）
- ・第23回図書館総合展フォーラム「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスと JPCOAR を考える」開催（11月19日）

4) 人材育成作業部会

- ・オープンアクセス新任担当者研修（基礎研修）申込者数：111名
9月21日 研修資料の公開
9月21日～10月15日 質問受付（7名から24件の質問）
10月22日 スクーリング（計97名参加）
- ・学術コミュニケーションセミナー（月刊 JPCOAR）（専門研修）申込者総数：797名
10月19日 学術情報流通の情報収集に役立つサイト紹介（238名参加）
11月17日 チャプターレベルのメタデータ流通（187名参加）
12月7日 研究データ管理・利活用と NII 研究データ基盤（205名参加）
2022年1月25日 学術情報流通周辺話題（167名参加）

5) 次期中期戦略タスクフォース

- ・オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 に沿ったこれまでの活動を「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度振り返り」にまとめ、各項目の進捗状況や事業内容等について確認（6月～7月）
- ・現戦略の 1-5 レベルの活動方針を大項目とし、副主査ミーティング（オンライン）にて項目を確定（7月～8月）
- ・タスクフォースメンバーと副主査による拡大ミーティング（オンライン）で意見交換後、主査を中心に素案を作成（9月）
- ・運営委員会で承認されたタスクフォース案（活動方針案）について図書館総合展（オンライン）にて説明し、JOC PAR 会員機関と意見交換（11月19日）
- ・活動方針案を会員機関に提示して、意見募集（1月）。
- ・総会において活動方針案の承認を得る。（3月予定）

6) 次期 JC 移行タスクフォース

- ・メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポート
- ・学術情報基盤オープンフォーラム 2021「次期 JAIRO Cloud（WEKO3）本番移行に向けて」にて講演（7月7日）
- ・次期 JAIRO Cloud（WEKO3）移行サポート動画公開（7月）
- ・「第1回次期 JAIRO Cloud（WEKO3）移行勉強会」開催（予定）

7) COAR Community Framework 検討タスクフォース

- ・Asia OA seminar series (Japan)にて、これまでの活動を発表（4月27日）
- ・“COAR Community Framework for Good Practices in Repositories”をベースに作成したチェックリストのプレテスト実施（6月11日）
- ・COAR2021 年次総会にて、活動報告（9月30日）
- ・Asia OA Meeting 2021 にて、活動報告（10月27日）
- ・チェックリスト（ver.1）公開（11月18日）
- ・図書館総合展にて、活動報告（11月19日）
- ・ウェブアンケート調査実施（2022年1月5日～31日）

(4) 海外会議参加

- ・COAR2021 年次総会（2021年9月29日-10月1日）（オンライン開催）
作業部会員1名、JPCOAR 事務局員1名がオンラインで出席し、活動報告及び情報交換を行った。
- ・Asia OA Meeting 2021（2021年10月25日～27日）（オンライン開催）
JPCOAR 事務局員による活動報告及び情報交換・入手
国立国会図書館カレントアウェアネス-E (<https://current.ndl.go.jp/e2459>) での報告

(5) 成果等

- 1) 報告書「機関リポジトリにおける識別子・ライセンスの付与状況」(2021 年 4 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/680>
- 2) 『データベースレスキューマニュアル』 ver.1.0 (2021 年 4 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000001>
- 3) 『研究データ管理 (RDM) 教材作成チーム活動報告書』 (2021 年 4 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000002>
- 4) 『2020 年度 RDM 事例形成プロジェクト中間報告書』 (2021 年 4 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000003>
- 5) IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : JPCOAR スキーマ編 (バージョン 1.2) (2021 年 6 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/160>
- 6) IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : junii2 編 (バージョン 2.3) (2021 年 6 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/215>
- 7) SCPJ データメンテナンス結果報告 (2021 年 10 月)
<https://doi.org/10.34477/0002000077>
- 8) 「リポジトリのグッドプラクティスのための COAR コミュニティフレームワーク」
チェックリスト ver.1 (2021 年 11 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000087>
- 9) フライヤー「DOI を入力しよう！」(2021 年 12 月)
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000099>
- 10) 2021 年度 RDM 事例形成プロジェクト報告書 (NISTEP との共同分析結果を含む)
(2022 年 3 月予定)
- 11) 2021 年度 RDM 教材作成プロジェクト報告書 (2022 年 3 月予定)
- 12) NDL メタデータ作成者向けのガイドラインの公表 (2022 年 3 月予定)
- 13) 次期 JPCOAR スキーマ改訂方針 (案) の公表 (2022 年 3 月予定)
- 14) ワークフロー実証実験の報告 (2022 年 3 月予定)
- 15) DOI・ライセンス登録の先行事例ヒアリング調査報告書 (2022 年 3 月予定)

5. オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会名簿

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	委員長・主査・担当
鶴澤 和往	北海道大学附属図書館研究支援課長	国際担当
木下 聡	東京大学附属図書館事務部長	委員長・次期中期戦略タスクフォース主査
小野 亘	東京大学教養学部等図書課長	次期 JC 移行タスクフォース主査
高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	コンテンツ流通促進作業部会主査
杉田 茂樹	京都大学附属図書館学術支援課長	人材育成作業部会主査
西岡 千文	京都大学附属図書館研究開発室助教	
尾崎 文代	広島大学学術・社会連携室図書館部図書学術情報企画グループリーダー	コミュニティ強化・支援作業部会主査
結城 憲司	九州大学附属図書館図書館企画課長	研究データ作業部会主査
古谷 陽	高知工科大学情報部長	
折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	
原 修	立教大学図書館事務部長	
川崎 安子	武庫川女子大学附属図書館次長	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	総務・財務担当・COAR Community Framework 検討タスクフォース主査

※2021 年 4 月 26 日の臨時総会審議にて承認。

作業部会・タスクフォース 2021 年度活動報告

1. 研究データ作業部会
2. コンテンツ流通促進作業部会
3. コミュニティ強化・支援作業部会
4. 人材育成作業部会
5. 次期中期戦略タスクフォース
6. 次期 JC 移行タスクフォース
7. COAR Community Framework 検討タスク
フォース

研究データ作業部会 2021 年度活動報告

主査：結城 憲司

1. 2021 年度活動計画

- (1) 次期 JAIRO Cloud において研究データ公開を促進する活動を検討・実施する。
- (2) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベースレスキュープロジェクトを実施する。
 - ・副主査・プロジェクトリーダー：置かない
 - ・参加メンバー：NII・古川、京大・天野
- (3) 大学 ICT 推進協議会研究データマネジメント部会 (AXIES-RDM 部会) と連携して、RDM 事例形成プロジェクトを実施する。
 - ・副主査・プロジェクトリーダー：NII・南山
 - ・参加メンバー：九大・結城、JPCOAR・安原、NIMS・小野寺
 - ・活動計画：RDM アンケート調査結果の詳細分析依頼、RDM ヒアリングシートに基づくインタビュー実施、ワークショップ開催の検討
- (4) これまで開発した研究データ管理に関する教材の利活用の拡大を図るとともに、次なる教材充実に向けて情報収集を進める。
 - ・副主査・プロジェクトリーダー：千葉大・小林
 - ・参加メンバー：NII・南山、NII・尾城、名大・田中、北大・三上、NII・古川、NII・末田、NII・松野
 - ・活動計画：RDM 教材の普及、ユーザーからのフィードバック、改善点の検討

2. 会合・活動状況 (4～3 月)

- (1) 作業部会全体
 - ・6月21日 第1回研究データ作業部会全体ミーティング (オンライン)
 - ・12月13日 第2回研究データ作業部会全体ミーティング (オンライン)
 - ・2022年2月18日 第3回研究データ作業部会全体ミーティング (オンライン)
- (2) RDM 事例形成プロジェクト
 - ・7月15日 第1回プロジェクトミーティング (オンライン)
 - ・8月26日 2021年度第1回 RDM 事例形成プロジェクトメンバー意見交換会 (オンライン)
 - ・8月31日 NISTEP に対し「JPCOAR/AXIES が実施した「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」データの共同分析について (依頼)」および「RDM 調査データ共同分析に関する覚書 (案)」のメール送付
 - ・8月31日 アンケート協力機関に対し「JPCOAR/AXIES が実施した「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査」データの共同分析について」

のメール送付

- ・ 9月2日 第2回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 10月28日 第3回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 12月7日 NISTEP 分析結果の打ち合わせ（オンライン）
- ・ 12月10日 第4回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 2022年1月28日 第5回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 2月2日 2021年度第2回 RDM 事例形成プロジェクトメンバー意見交換会（オンライン）
- ・ 1月～3月 プロジェクト報告書作成
- ・ 3月頃 NISTEP「STI Horizon」誌にアンケート分析結果の記事を掲載（予定）

(3) RDM 教材作成プロジェクト

- ・ 8月23日 第1回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 10月7日 第2回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 11月12日 第3回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 12月～2022年1月 RDM 教材の修正作業
- ・ 2022年1月14日 第4回プロジェクトミーティング（オンライン）
- ・ 1月～2月 国内のニーズに即した教材作成のための項目の洗い出し
- ・ 2月～3月 プロジェクト報告書作成

(4) その他（AXIES との連携事業等）

- ・ 7月21日 AXIES-RDM 部会主査・青木先生との打合せ（オンライン）
- ・ 9月28日 第1回 大学における研究データポリシー策定ワークショップ（オンライン） 約20名参加
- ・ 11月22日 RDUF 公開シンポジウムライトニングトークでの報告（オンライン）
- ・ 11月29日 第2回（リピーтセッション） 大学における研究データポリシー策定ワークショップ（オンライン） 約15名参加
- ・ 12月15日 AXIES 年次大会 RDM 部会企画セッション（ハイブリッド開催）での報告
- ・ （時期未定）第3回（リピーтセッション） 大学における研究データポリシー策定ワークショップ（オンライン）
※10名ほど参加者が集まれば開催予定とのこと

3. 成果物（予定も含む）

- ・ 2021年度 RDM 事例形成プロジェクト報告書（NISTEP との共同分析結果を含む）
- ・ 2021年度 RDM 教材作成プロジェクト報告書
- ・ RDM 事例形成プロジェクト参加機関による RDM 事例集

コンテンツ流通促進作業部会 2021 年度活動報告

主査：高橋 菜奈子

1. 2021 年度活動計画

- (1) ワークフローを考慮したオープンアクセスインフラの機能検証を行う。
 - ・コンテンツ登録アシスト機能の開発協力（実証実験）・広報
- (2) 著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、データ活用の検討を行う。
 - ・SCPJ データベースのライセンス検討
 - ・ウェブサイトおよびデータベースの英語対応
 - ・昨年度のデータメンテナンスのまとめ・今後の検討
- (3) JPCOAR スキーマの普及・維持管理を継続して実施するとともに、デジタルアーカイブ対応を検討する。
 - ・NII・JST・NDL の 3 機関によるメタデータ WG に参加
 - ・次期 JPCOAR スキーマのデジタルアーカイブ対応方針の検討
 - ・研修やイベントにおける JPCOAR スキーマの普及活動
- (4) 識別子・ライセンスの調査結果に基づき、普及活動を実施する。
 - ・昨年度調査結果リスト（Crossref DOI とのマッチング）を各機関に提供
 - ・識別子・ライセンスに関わる既存調査の分析と普及活動

2. 会合・活動状況（4～3 月）

- ・6 月 17 日 第 1 回全体ミーティング（オンライン）
全体を 4 つのチームにわけて、活動することとなった。
 - ・ワークフローチーム（前田隼<副主査>、藤田、三木、河合、尾城、林）
 - ・SCPJ チーム（松村<副主査>、藤田、菅原）
 - ・メタデータチーム（片岡<副主査>、瀬川、林、増山、末田）
 - ・DOI チーム（菅原<副主査>、三木、室井、増山）
- ・12 月 20 日 第 2 回全体ミーティング（オンライン）
- ・2～3 月頃 第 3 回全体ミーティング（オンライン）

以下、各チームの活動状況

(1) ワークフローチーム

- ・2021 年 5 月 25 日～6 月 10 日 「次期 JAIRO Cloud コンテンツ登録アシスト機能にかかる事前アンケート」を実施
- ・2022 年 1 月 11 日～2 月 18 日コンテンツ登録アシスト機能第 3 段階実証実験
参加予定：横浜国立大学、新潟大学、信州大学、福井大学、熊本大学
実証実験オンライン説明会 10 月 26 日実施

(2) SCPJ チーム

- ・ SCPJ データメンテナンス結果報告書の作成 10 月公開
- ・ SCPJ ウェブサイトの英語化
- ・ データのライセンスの検討

(3) メタデータチーム

- ・ 6 月 1 日 DataCite DOI の登録開始に伴う DOI 管理メタデータ入力ガイドラインの改訂
JPCOAR スキーマ編 : <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/160>
junii2 編 : <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/215>
- ・ 5 月 21 日、6 月 30 日 NDL との会合 (オンライン)
活動内容 : NDL のメタデータ作成者向けのガイドラインの策定に協力
- ・ 「JPCOAR スキーマ Version 2.0 策定方針」の検討
 - ・ 9 月 1 日、11 月 9 日 これからの学術情報システム構築検討委員会システムワークフロー検討部会との情報交換会 (オンライン)
活動内容 : これから委員会、NII、NDL との意識合わせ・枠組みの整理、改訂方針の方向性の確認
 - ・ 12 月 16 日 NII の依頼により、研究データのメタデータ共通項目について検討 (オンライン)
- ・ COAR Resource Type v.3 への対応に向けた翻訳
研究データ作業部会と共同で翻訳作業開始
- ・ 月刊 JPCOAR 第 6 回 (3 月 22 日) 「デジタルアーカイブとメタデータ流通」報告

(4) DOI チーム

- ・ 7 月 16 日、8 月 31 日、11 月 5 日、11 月 24 日、12 月 7 日、12 月 17 日 DOI チームミーティング (オンライン)
活動内容 : 今年度活動計画の検討と実施
- ・ JPCOAR への加入有無と DOI 付与状況について調査 (9 月～)
- ・ IRDB 調査結果に基づく CrossRef DOI リストを各機関に配布
 - 会員機関 167 機関。28,740 レコード (2021 年 11 月 18 日付で送付)
 - 非会員機関 18 機関。1,137 レコード (2021 年 11 月 22 日付で送付)
- ・ DOI 登録の先行事例ヒアリング調査 (12 月 20 日～1 月 13 日)
目的 : DOI・ライセンス付与の促進に有効な、あるいは障害となっている要因などを明らかにし、今後の普及活動に活かすこと
対象大学 : 北海道大学、同志社大学、神奈川大学、東京大学、千葉大学、京都大学、慶応義塾大学、立教大学、東北大学、長崎大学
- ・ 月刊 JPCOAR 第 4 回 (1 月 25 日) で「識別子・ライセンスの国内普及状況」報告

3. 成果物（予定も含む）

- ・ IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン：JPCOAR スキーマ編（バージョン 1.2）：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/160>
- ・ IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン：junii2 編（バージョン 2.3）：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/215>
- ・ 2021 年 7 月 8 日（木）NII オープンフォーラム RCOS トラック 5
「次世代機関リポジトリの機能」河合将志
- ・ SCPJ データメンテナンス結果報告書（10 月 22 日）
URL：<https://doi.org/10.34477/0002000077>
- ・ フライヤー「DOI を入力しよう！」（12 月 20 日）
URL：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000099>
- ・ 月刊 JPCOAR 第 4 回「識別子・ライセンスの国内普及状況」（1 月 25 日）
URL：<https://doi.org/10.34477/0002000137>
- ・ SCPJ ウェブサイトの英語化（2 月予定）
- ・ CoCOAR14 号にて Crossref DOI の入力に関する周知活動について広報（2 月予定）
- ・ JPCOAR スキーマ Version 2.0 策定方針の公表（3 月予定）
- ・ 月刊 JPCOAR 第 6 回「デジタルアーカイブとメタデータ流通」（3 月 22 日予定）
- ・ NDL メタデータ作成者向けのガイドラインの公表（3 月予定）
- ・ ワークフロー実証実験の報告（3 月予定）
- ・ DOI・ライセンス登録の先行事例ヒアリング調査報告書（3 月予定）

コミュニティ強化・支援作業部会 2021 年度活動報告

主査：尾崎 文代

1. 2021 年度活動計画

(1) JPCOAR の活動成果普及、地域単位でのコミュニティ活性化をはかるため、図書館総合展のフォーラム開催及びオンラインを含む地域でのイベントプログラムを実施する。メーリングリスト当コミュニティツールを活用する。

(2) 協会ウェブサイト（日/英）、Facebook、twitter、情報誌 CoCOAR での情報提供および情報発信を行う。

(3) 会員機関のグッドプラクティスを情報誌やイベント（開催支援を含む）で取り上げて情報共有を図る。

2. 会合・活動状況（4～3 月）

・5 月 21 日 第 1 回ミーティング

CoCOAR、OAW、5 周年企画、OA 推進ページ、オープンサイエンス関連ドキュメントまとめ、BI ツール集約、新作業部会員オリエンテーション

・6 月 30 日 第 2 回ミーティング

問い合わせ対応メール、沿革まとめ、総合展企画

・7 月 20 日 第 3 回ミーティング

・8 月 6 日 設立 5 周年記念座談会

・8 月 20 日 第 4 回ミーティング

・9 月 17 日 第 5 回ミーティング

・9 月 30 日 CoCOAR13 号刊行

・10 月 18 日 第 6 回ミーティング

・10 月 25～31 日 オープンアクセスウィーク

・11 月 19 日 図書館総合展フォーラム

「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスと JPCOAR を考える」

・11 月 24 日 第 7 回ミーティング

・12 月 17 日 第 8 回ミーティング

・1 月 28 日 第 9 回ミーティング

・2 月 28 日 第 10 回ミーティング

・2 月末 CoCOAR14 号刊行予定

3. 成果物（予定も含む）

・BI ツール https://nii.backlog.jp/file/IRWGTF_ALL

・オープンサイエンス関連基本ドキュメント <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/os-resource>

・covid19 関連 OA 推進ページ <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/147>

・新作業部会員オリエンテーション https://nii.backlog.jp/wiki/IRWGTF_ALL/Home

人材育成作業部会 2021 年度活動報告

主査：杉田 茂樹

1. 2021 年度活動計画

- (1) 研修の編成、内容について継続的に検討・評価を行う
- (2) 基礎研修：開催形態（リアルタイム講義とするか等）について再検討の上、オープンアクセス（機関リポジトリ運営を含む）に関する基礎的なオンライン研修を実施する。
- (3) 専門研修：関連団体との協働により、学術情報流通に関する各種動向理解のためのオンラインセミナーを実施する。

2. 会合・活動状況（4～3 月）

- ・ 7 月 15 日 オンラインミーティング 専門研修の企画立案（以降随時実施）
- ・ 7 月 30 日 オンラインミーティング 基礎研修の企画立案（以降随時実施）
- ・ 9 月～ 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)、これからの学術情報システム検討委員会から、研修企画への協力者参画
- ・ 基礎研修（オープンアクセス新任担当者研修）の開催
 - 9 月 21 日 研修資料公開
 - 10 月 22 日 オープンアクセス新任担当者研修 スクーリング
- ・ 専門研修（月刊 JPCOAR）の開催
 - 10 月 19 日 第 1 回 学術情報流通の情報収集に役立つサイト紹介
 - 11 月 17 日 第 2 回 チャプターレベルのメタデータ流通
 - 12 月 7 日 第 3 回 研究データ管理・利活用と NII 研究データ基盤
 - 1 月 25 日 第 4 回 学術情報流通周辺話題
 - 2 月 21 日 第 5 回 学術情報流通のオープン化をめぐる諸問題
 - 3 月 22 日 第 6 回 デジタルアーカイブとメタデータ流通

3. 成果物（予定も含む）

- ・ 2021 年度オープンアクセス新任担当者研修資料（9 月 21 日）
URL : <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000068>
- ・ 第 1～5 回学術コミュニケーションセミナー配布資料公開
URL: <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2021#news2021>
- ・ 第 1～4 回学術コミュニケーションセミナー動画公開
URL: <https://www.youtube.com/channel/UCAgQP5nLJpjeollkSYWEh1Q>

以上

次期中期戦略タスクフォース 2021 年度活動報告

主査：木下 聡

1. 2021 年度活動計画

- ・協会の「オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度」の終了に伴い、次期中期戦略の基本的な方針や取り扱い等を、効率的・集中的に審議し、運営委員会に報告する。

2. 会合・活動状況（4～3 月）

○6 月 15 日 第 1 回ミーティング（オンライン）

- ・現戦略に沿ったこれまでの活動を「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度振り返り」にまとめ、各項目の進捗状況や事業内容等について確認した。
- ・次期戦略の内容、構成、期間等について検討した。

○7 月 14 日 第 2 回ミーティング（オンライン）

- ・現戦略の 1-5 レベルの活動方針を大項目とし、各作業部会副主査の意見から今後の重点目標を 10 程度選び、小項目とする構成案をもとに次期中期戦略案の作成を進めるという方針を決めた。
- ・副主査から意見を出してもらうために、杉田委員を担当として、副主査ミーティングを開催することとした。
- ・副主査ミーティング後、タスクフォースと合同で拡大ミーティングを開催し、次期中期戦略の素案を作成することとした。

○7 月 29 日 第 1 回 副主査ミーティング（オンライン）

- ・杉田委員からミーティングの趣旨説明を行い、意見を出すための項目について検討を行った。

○8 月 23 日 第 2 回 副主査ミーティング（オンライン）

- ・項目を確定し、これに沿って出した意見について協議した。

○9 月 15 日 拡大ミーティング（オンライン）

- ・副主査ミーティングのメンバーを加え、コミュニティ、人材育成、コンテンツ、システム等のテーマごとに意見交換を行った。
- ・これまでの議論をもとに、主査を中心に素案を作成。Backlog 上でタスクフォースによる意見交換を行った上で改訂し、運営委員会に提出する前に拡大ミーティングメンバーにはかることとした。

○11 月 15 日 運営委員会（オンライン）

- ・上記の手順を経て作成したタスクフォース案（活動方針案）が承認された。

○11 月 19 日 図書館総合展（オンライン）

- ・フォーラム第 2 部で活動方針案について説明し、意見交換を行った。

○1 月 13 日～28 日 メーリングリスト

- ・活動方針案を会員に提示して、意見募集を行った。

○2月2日～8日 運営委員会（オンライン）

- ・会員からの意見を受けて、Backlog 上で協議し、活動方針案を修正した。

○3月16日 総会（オンライン）

- ・総会において活動方針案の承認を得る（予定）。

次期 JC 移行タスクフォース 2021 年度活動報告

主査：小野 亘

1. 2021 年度活動計画

協会が国立情報学研究所と共同運営する JAIRO Cloud について、次期 JAIRO Cloud への移行作業に伴い、会員間並びに JAIRO Cloud 利用機関間の相互支援を強化することを目的とする。(TF 内規より)

- ・ 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。(2.6) (コンテツツ作業部会)
- ・ メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。(3.1、3.3) (コミュニティ作業部会)
- ・ 専門研修：(状況に鑑み、必要があれば) 次期 JAIRO Cloud の機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。(人材育成作業部会)

2. 会合・活動状況 (4～3 月)

- ・ 4/21 (水) 16:00-17:00 WEKO3 開発状況の共有 (有志非公式)
- ・ 5/19 (水) 13:00-15:00 第 0 回ミーティング (準備会合)
- ・ 6/8 (火) 13:00-15:00 第 1 回会合
- ・ 7/15 (木) 10:00-12:00 第 2 回次期 JC 移行 TF 会合
- ・ 9/3 (木) 13:00-15:00 第 3 回次期 JC 移行 TF 会合
- ・ 10/8 (金) 10:00-12:00 第 4 回次期 JC 移行 TF 会合
- ・ 11/18 (木) 10:00-12:00 第 5 回次期 JC 移行 TF 会合
- ・ 12/24 (木) 10:00-12:00 第 6 回次期 JC 移行 TF 会合
- ・ 2/4 (金) 10:00-12:00 第 7 回次期 JC 移行 TF 会合

主な検討内容：

- (1) 問い合わせ対応について
- (2) JPCOAR テストについて
- (3) JAIRO Cloud (WEKO3) 基本マニュアルについて
- (4) 開発側への要望
- (5) 勉強会企画について
- (6) 動画作成について

3. 成果物 (予定も含む)

- ・ 学術情報基盤オープンフォーラム 2021 「次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 本番移行に向けて」 (2021 年 7 月 7 日)

https://www.nii.ac.jp/openforum/2021/day2_cont1.html

◇ 先行移行のまとめ/本番移行について

- 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 林 正治

◇ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 先行移行事例報告：東京大学

- 東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム 松原 恵

◇ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 先行移行事例報告 KIT-R (きっとあーる) 編

- 北見工業大学情報図書課 栗田 とも子

◇ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行への協力のお願い

- 琉球大学附属図書館 大谷 周平

- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画 (7 月)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLZdRLSdt3sbhnSXuVfY6vOROEQN5S2G1s>

- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画_個別登録編
- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画_個別更新編
- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画_一括登録編：一括登録の基本操作
- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画_一括登録編：メタデータファイルの基本項目説明
- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行サポート動画_一括更新編

4. その他

- ・ 「第 1 回次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行勉強会」は延期中 (開催未定)

COAR Community Framework 検討タスクフォース 2021 年度活動報告

主査：吉田 幸苗

1. 2021 年度活動計画

(1) "COAR Community Framework for Good Practices in Repositories"をベースに作成したチェックリストの検証を行い、公開する。

(2) 実際のリポジトリを対象にチェックリストを用いてウェブアンケートを行う。

2. 会合・活動状況（4～3 月）※年度内の今後の予定も加えてください。

- ・ 4 月 27 日 COAR Asia の Webinar にて、これまでの活動を発表。
- ・ 6 月 11 日 チェックリストのプレテスト（部会メンバーを対象）
- ・ 7 月 19 日 第 1 回ミーティング（場所：国立情報学研究所）
 - 1) プレテスト結果の共有、チェックリストへの反映
 - 2) チェックリスト集計ツールの作成
 - 3) Asia OA 側の反応
 - 4) その他
- ・ 7 月 チェックリスト改定
- ・ 9 月 30 日 COAR Annual meeting にて、活動報告
- ・ 9 月 30 日 CoCOAR 13 号 記事掲載
- ・ 10 月 27 日 Asia OA にて、活動報告
- ・ 11 月 18 日 チェックリスト（ver.1）公開
- ・ 11 月 19 日 図書館総合展にて、活動報告
- ・ 1 月 ウェブアンケート調査

3. 成果物（予定も含む）

- ・ チェックリスト
- ・ アンケート調査結果概要（予定）

4. その他

チェックリストの英訳も並行して進行中。

<収入の部>

科目	2021年度当初 予算額(A)	2021年度決算 見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
1. 会費	17,710,000	18,239,000	529,000	2021年度会員機関数: 684(1月現在) 区分A:607 x 2.3万円 = 13,961千円 区分B:45 x 4.6万円 = 2,070千円 区分C:32 x 6.9万円 = 2,208千円
計	17,710,000	18,239,000	529,000	

<支出の部>

科目	2021年度 当初予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
1. 事務局経費	13,830,000	13,912,000	82,000	
(1) 事務協力費	9,500,000	9,400,000	▲ 100,000	事務協力費及び事務補佐員人件費※ 1
(2) 事務局運営費	4,330,000	4,512,000	182,000	窓口委託経費、会員コミュニケーションツール、その他
2. 運営委員会等経費	210,000	0	▲ 210,000	
活動費	200,000	0	▲ 200,000	オンライン会議実施
監事監査費	10,000	0	▲ 10,000	
3. 総会経費	610,000	384,000	▲ 226,000	
総会会場費	0	0	0	オンライン会議実施
総会運営費	600,000	374,000	▲ 226,000	オンライン会議運営支援
総会旅費	10,000	10,000	0	旅費（近距離）
4. 図書館総合展出展	400,000	436,000	36,000	オンラインイベント運営支援
5. 部会活動費	1,550,000	1,387,000	▲ 163,000	
研究データ作業部会	150,000	27,000	▲ 123,000	AXIES年次大会報告
コンテンツ流通促進作業部会	500,000	155,000	▲ 345,000	DOI調査、その他
コミュニティ強化・支援作業部会	200,000	0	▲ 200,000	
人材育成作業部会	700,000	1,205,000	505,000	研修、セミナーオンライン開催支援
次期中期戦略TF	0	0	0	
次期JC移行TF	0	0	0	
COAR community framework検討TF	0	0	0	
6. 国際連携活動費	1,110,000	2,120,000	1,010,000	
海外派遣旅費	0	0	0	
COAR会費	1,110,000	2,120,000	1,010,000	COAR年会費2021年分および2022年分を支払
計	17,710,000	18,239,000	529,000	

※国立情報学研究所予算からの支援はなし。

※ 1：「事務補佐員」の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、事務協力費の内訳は示さない。

JAIRO Cloud利用料金

< 収入の部 >

科目	2021年度 当初予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
JAIRO Cloud利用料金	69,652,000	72,072,000	2,420,000	
計	69,652,000	72,072,000	2,420,000	

< 支出の部 >

科目	2021年度 予算額(A)	2021年度 決算見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
JAIRO Cloud運用費	69,652,000	72,072,000	2,420,000	
計	69,652,000	72,072,000	2,420,000	



次期JAIR Cloud (WEKO3) への移行について

2022-03-16

© 2021 National Institute of Informatics



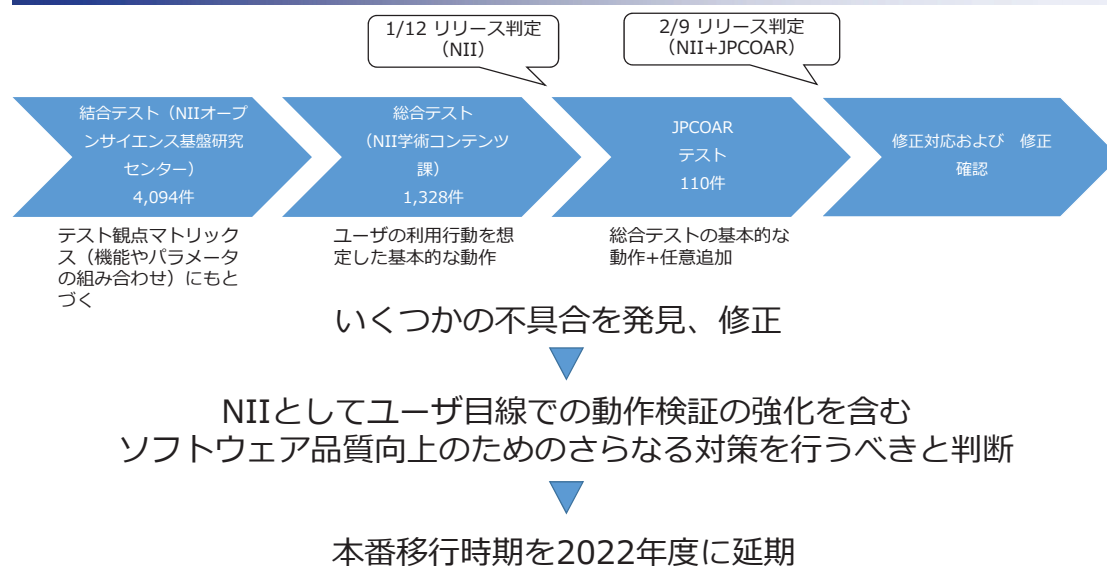
これまでの経緯

- 2021年6～10月
 - JAIR Cloud (WEKO3) への本番移行を予定
- 2021年7月
 - 基本的な機能面のバグの多さを鑑みて本番移行開始を延期



NIIおよびJPCOARによる
入念なテストとリリース判定を経たうえで移行を実施

リリース判定の実施



2

今後について

根本的な改善に向けて、品質管理手法および体制構築も含めてのソフトウェア品質の向上に努めます。
また、ユーザ利用の観点からの機能改善を継続して進めて参ります。

今後の状況および移行スケジュールについては、上記品質管理体制が確立され、品質向上の確認ができたのち、改めて情報を共有させていただきます。

ご迷惑をおかけして申し訳ありません。
ご理解・ご協力のほどをお願い致します。

3

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則

（平成 28 年 7 月 27 日
制 定）

第 1 章 総則

（設置）

第 1 条 本会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）と称する。
英語名称は、Japan Consortium for Open Access Repository とし、略称を JPCOAR とする。

（目的）

第 2 条 協会は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的とする。

2 協会は、前項の目的を達成するために、国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所との間に締結された協定書に基づき設置された大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議と連携して活動する。

（定義）

第 3 条 この会則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 リポジトリ 実験や調査で得られたデータなどの学術成果物を生成するまでに収集される中間生成物（以下「研究データ」という。）を含め、学術的な情報を電子的に保存し公開するものをいう。

二 オープンアクセス リポジトリ等を利用して学術論文等の学術成果物を無料で公開することをいう。

三 オープンサイエンス 学術論文等の完成された学術成果物のみならず、リポジトリ等を利用して研究データ等の中間的な生成物を活用できる形で公開することをいう。

（事業）

第 4 条 協会は、第 2 条の目的を達成するために次の重点目標を掲げ、事業を実施する。

一 オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善

二 リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用

三 リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実

四 担当者の人材育成のための研修活動

五 国際的な取組みに対する積極的連携

六 前各号のほか、協会の目的を達成するために必要な事業

第2章 組織

(会員の資格)

第5条 協会の会員資格は次のとおりとする。

- 一 国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会のいずれかに属する図書館
 - 二 科学研究費補助金取扱規程（昭和40年3月30日文部省告示第110号）第2条1項で定める研究機関
 - 三 前二号に属する部局等
 - 四 国立情報学研究所
 - 五 その他、協会の目的に賛同する大学図書館等の施設であって、運営委員会が認めたもの
- 2 前項の資格を満たす施設等機関は JAIRO Cloud を利用することができる。

(会長)

第6条 協会に会長を置く。

- 2 会長は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 会長の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き3年を超えて在任することはできない。
- 4 会長に選出された会員の長は、協会を代表する。

(監事)

第7条 協会に監事2を置く。

- 2 監事は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 監事の任期は1年とし、期間は7月1日から翌年6月30日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き2年を超えて在任することはできない。
- 4 監事に選出された会員の長又は長を代理する者は、協会の会計を監査し総会で報告する。

(運営委員会)

第8条 協会を運営するために運営委員会を設置する。

- 2 前条第4項の者は、運営委員会の委員になることができない。
- 3 その他、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第9条 協会の事務局は、国立情報学研究所に置く。

第3章 総会

(総会)

第10条 会長は、毎年1回通常総会を招集しなければならない。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、臨時総会を招集することができる。
- 3 前項に定めるもののほか、会員の10分の1以上から総会の招集を請求されたときは、会長は、臨時総会を招集しなければならない。
- 4 臨時総会は、会員に文書等で議事に対する賛否を問うことにより代えることができる。

(議長)

第11条 議長は、第6条第4項の者が務める。

(定足数)

第12条 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。なお、委任状の提出をもって出席に代えることができる。

(議事)

第13条 次の事項は、総会において、承認を得なければならない。

- 一 年度事業の実施および計画に関する事項
- 二 会費の徴収および会計に関する事項
- 三 その他、必要とされる事項

第4章 参加及び脱退

(参加及び脱退)

第14条 協会に参加を希望するものは、別に定める参加申請書を会長に提出しなければならない。

- 2 協会からの脱退を希望する会員は、会長に脱退届を提出しなければならない。
- 3 会員の参加又は脱退に関する処理は運営委員会で行い、総会で報告する。

第5章 会計

(会計年度)

第15条 協会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌3月31日に終わる。

(会費)

第16条 会員の会費に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 会則の変更等

(会則の変更)

第17条 この会則は、総会において会員総数の3分の2以上の同意がなければ、変更することができない。

(解散)

第18条 協会を解散する場合は、総会において会員総数の4分の3以上の同意がなければならない。

第7章 雑則

第19条 この会則に定めるもののほか、この会則の施行について必要な事項は、別に定める。

附 則

本会則は、平成28年7月27日から施行する。

本会則は、平成30年4月1日から施行する。

平成29年度の監事は第7条3号の規定に関わらず、その任期を1年3か月とし、期間を平成30年6月30日までとする。

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

平成 28 年 7 月 27 日
制 定

(設置)

第 1 条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）第 8 条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 運営委員会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の円滑な運営のため、会則第 4 条に定める事業を企画・立案し、実施することを目的とする。

(委員)

第 3 条 運営委員会は、協会会員である施設等の職員 15 名以内により組織する。

2 運営委員会の委員は、会則第 10 条の総会（以下「総会」という。）において決し、会則第 6 条第 4 項の者が委嘱する。

3 総会で必要と認められた場合、協会会員である施設等の職員以外の者を委員とすることができる。なお、この場合の委員も第 1 項に定める定員に含むものとする。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第 5 条 運営委員会に委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により選出する。なお、再任を妨げない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を行う。

(作業部会)

第 6 条 運営委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

2 作業部会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 運営委員会の委員

二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員

三 その他、運営委員会が必要と認められた者

3 作業部会に主査を置く。主査は、前項第 1 号の委員のうちの一をもって充てる。

4 主査及び作業部会員は、委員長が委嘱する。

5 作業部会員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

6 作業部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、協会の事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

第3条の規定に関わらず、当面は大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に設置された機関リポジトリ推進委員会をもって運営委員会に代える。

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程

平成28年7月27日
制 定

(総則)

第1条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）の第16条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の会費に関して必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1)「JAIRO Cloud サービス」とは、国立情報学研究所共用リポジトリサービス利用規程第2条に規定するサービスとする。
- (2)「JAIRO Cloud 環境」とは、JAIRO Cloud サービスで使用する機関リポジトリ環境であり、JAIRO Cloud サービスの利用単位とする。
- (3)「構成員数」とは、当該の利用機関に所属する「常勤の教員及び研究者」の人数とする。ただし、常勤の教員及び研究者を置かない機関にあっては、その人数は0人とする。
- (4)「登録容量」とは、会員が1つの JAIRO Cloud 環境に登録等することができる上限のコンテンツ等の容量とする。
- (5)「年度」とは、4月1日から翌年3月31日までとする。

(会費の区分)

第3条 協会の会費は、以下の各号に掲げる区分で構成する。

- 一 基本会費
- 二 JAIRO Cloud 利用料金
- 三 JAIRO Cloud 特別料金

(基本会費)

第4条 第3条第1号の基本会費は、別紙1の表1「基本会費」のとおりとする。

(JAIRO Cloud 利用料金)

第5条 第3条第2号の JAIRO Cloud 利用料金は、別紙2の表2「JAIRO Cloud 利用料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud サービスの利用を希望する機関は、前項で定める JAIRO Cloud 利用料金を支払うものとし、1つの JAIRO Cloud 環境につき 100 ギガバイトを登録容量とする（以下「基本 JC サービス」という。）。
- 3 前項の規定にかかわらず、年度途中で利用開始となる場合には、利用開始月の翌四半期から当該年度末までの四半期ごとに前項の料金の 4 分の 1 を乗ずる額の合計額を利用料金とする。1 円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てる。
- 4 2つ以上の基本 JC サービスを利用する会員は、第 2 項及び第 3 項に該当する JAIRO Cloud 利用料金を合計した利用料金を支払うものとする。

（JAIRO Cloud 特別料金）

第 6 条 第 3 条第 3 号の JAIRO Cloud 特別料金は、別紙 3 の表 3 「JAIRO Cloud 特別料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud環境において、100ギガバイトを超える登録容量を希望する会員は、前項で定めるJAIRO Cloud特別料金を支払うものとし、申請した区分に応じてコンテンツ等を登録できるものとする（以下「特別JCサービス」という。）。
- 3 区分は、当該会員の申請に基づき、決定する。登録容量を増加する場合のみ、年度途中で区分を変更できるものとする。その場合、変更後の申請区分に相当する料金全額との差額を納入するものとする。
- 4 2つ以上の「特別JCサービス」を利用する会員は、申請した区分に応じた第 1 項に定める JAIRO Cloud特別料金を合計した特別料金を支払うものとする。

（会費の請求）

第 7 条 協会は、第 3 条に規定する会費を請求する。

- 2 すべての会員は、基本会費を納入する。
- 3 会員は、利用する JAIRO Cloud サービスに基づき、JAIRO Cloud 利用料金又は JAIRO Cloud 利用料金と JAIRO Cloud 特別料金の合計額を納入するものとする。
- 4 協会は、前項の額に消費税を加えた額を請求する。
- 5 すべての会費は、協会の事務局が指定した期日までに、指定する金融機関に振り込むものとする。
- 6 協会は、支払済みの会費を返還しない。

（基本会費の納入）

第 8 条 会員は、毎年度、協会の事務局が指定する期日までに基本会費全額を納入するものとする。

- 2 基本会費の分納は、認めないものとする。
- 3 年度の途中から入会した場合も、年額を納入するものとする。

（JAIRO Cloud 利用料金の納入）

第9条 基本 JC サービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度の JAIRO Cloud 利用料金の年額を納入するものとする。ただし、年度途中の利用開始後の取扱いは、第5条第3項によるものとする。

2 年度途中で利用する基本 JC サービスを追加する場合、当該会員は、前項の利用料金と追加の基本 JC サービスに係る利用料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 利用料金の分納は、認めないものとする。ただし、基本 JC サービスを追加する会員は、当該年度に納入した JAIRO Cloud 料金との差額を納入するものとする。

(JAIRO Cloud 特別料金の納入)

第10条 特別 JC サービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度の JAIRO Cloud 特別料金の年額を納入するものとする。

2 年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別 JC サービスを追加する場合、当該会員は、前項の特別料金と追加の特別 JC サービスに係る特別料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 特別料金の分納は、認めないものとする。ただし、年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別 JC サービスを追加する会員は、当該年度に納入した JAIRO Cloud 特別料金との差額を納入するものとする。

(支援金)

第11条 会員及び会員以外の個人又は団体会費以外の負担（以下「支援金」という。）を希望する場合は、運営委員会の承認を受けるものとする。

2 運営委員会委員長は、前項の事実が発生した場合には総会において報告を行うものとする。

(会費の管理)

第12条 会費及び支援金の管理は、協会の事務局を置く国立情報学研究所において行う。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、2019年3月13日に改正し、2020年4月1日から施行する。

附 則

前の附則にかかわらず、この規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年3月17日に改正し、2021年4月1日から施行する。

別紙 1

1. 第 3 条第 1 号の基本会費は、次の表 1 のとおりとする。

表 1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	26,000 円
B	601 ～ 1,100 人	52,000 円
C	1,101 人～	78,000 円

別紙 2

1. 第 3 条第 2 号の JAIRO Cloud 利用料金は、次の表 2 のとおりとする。

表 2 JAIRO Cloud 利用料金

区分	構成員数	JAIRO Cloud 利用料金(税抜き・年額)
G 1	0 ～ 100 人	40,000 円
G 2	101 ～ 200 人	80,000 円
G 3	201 ～ 300 人	120,000 円
G 4	301 ～ 400 人	160,000 円
G 5	401 ～ 500 人	200,000 円
G 6	501 ～ 600 人	240,000 円
G 7	601 ～ 700 人	280,000 円
G 8	701 ～ 800 人	320,000 円
G 9	801 ～ 900 人	360,000 円
G 1 0	901 ～ 1,000 人	400,000 円
G 1 1	1,001 ～ 1,100 人	440,000 円
G 1 2	1,101 ～ 1,200 人	480,000 円
G 1 3	1,201 ～ 1,300 人	520,000 円
G 1 4	1,301 ～ 1,400 人	560,000 円
G 1 5	1,401 ～ 1,500 人	600,000 円
G 1 6	1,501 人～	640,000 円

別紙3

1. 第3条第3号のJAIRO Cloud特別料金は、登録容量に応じ、次の表3のとおりとする。

表3 JAIRO Cloud 特別料金

区分	登録容量	JAIRO Cloud 特別料金 (税抜き・年額)
S1	100GB 超 200GB 以下	20,000 円
S2	200GB 超 400GB 以下	40,000 円
S3	400GB 超 1,000GB(1TB)以下	100,000 円
S4～	1TB 超 2TB 以下	200,000 円
	登録容量が 1TB を超える場合は、1TB を 1 区分として、1TB あたりの料金を 100,000 円として算出する。	

- 1) 本表における「区分」とは、当該の会員が利用する 1 つの JAIRO Cloud 環境当たりの登録容量によるものとする。

オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程

2017年3月22日
オープンアクセスリポジトリ
推進協会運営委員会

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」の第6条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の運営委員会（以下「委員会」という。）に設置する作業部会について定める。

(設置する作業部会)

第2条 委員会に、次の作業部会を設置する。

- (1) 研究データ作業部会
- (2) コンテンツ流通促進作業部会
- (3) コミュニティ強化・支援作業部会
- (4) 人材育成作業部会

2 運営委員会は、必要に応じて、時限的又は横断的な課題に係るタスクフォースを、作業部会のもとに設置できるものとする。

(研究データ作業部会)

第3条 研究データ作業部会においては、オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組を行う。

(コンテンツ流通促進作業部会)

第4条 コンテンツ流通促進作業部会においては、オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。

(コミュニティ強化・支援作業部会)

第5条 コミュニティ強化・支援作業部会においては、オープンアクセスを支えるコミュニティとしての機能を強化する。

(人材育成作業部会)

第6条 人材育成作業部会においては、オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。

(作業部会の運営)

第 7 条 作業部会の活動方針及び活動計画は、作業部会の審議を経て作業部会主査（以下「主査」という。）が策定し、委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、委員会において作業部会の活動状況を報告するものとする。

3 主査は、作業部会員から副主査を指名することができる。

4 作業部会の業務遂行において必要な場合は、作業部会委員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(庶務)

第 8 条 各作業部会の庶務は、協会事務局において処理する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2019 年 3 月 13 日に改正し、2019 年 4 月 1 日から施行する。

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度

2019 年 3 月 13 日

2018 年度総会決定

<現状認識－機関リポジトリを取り巻く環境の変化>

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）は、2016 年の創設以来、世界にも類をみないオープンアクセスリポジトリコミュニティとして成長を続けている。また、JPCOAR は、大学図書館界全体として活動するリポジトリの新しいコミュニティとして、機関リポジトリによる学術文献を中心としたオープンアクセスを進めることで、学術情報流通の改善を行ってきた。今後もそれが基礎であることに変わりはなく、学術雑誌論文のセルフアーカイブ、紀要論文、学位論文の公開という機関リポジトリの基本的な機能のみならず、リポジトリを通じた知の発信システムとして多様な学術成果の発信を進めていく。一方で、リポジトリを取り巻く状況は近年大きく変化している。とりわけ、世界的潮流となっているオープンサイエンスに関して、「第 5 期科学技術基本計画」では、「オープンサイエンスとは、オープンアクセスと研究データのオープン化（オープンデータ）を含む概念」とした上で、イノベーションを生み出す知の基盤としてのオープンサイエンス推進が謳われている。JPCOAR もその設立趣意書にあるように、学術成果のオープン化に寄与するため、オープンアクセスに関するこれまでの取り組みを土台として、オープンサイエンスの推進に、国内外の団体との連携を密にしながら取り組んでいくことが必要となる。

<ビジョン>

機関リポジトリをめぐる国内外の状況を踏まえ、リポジトリコミュニティとしての JPCOAR は、国内外の関係する団体、コミュニティと連携し、リポジトリによる知の発信システムを構築し、オープンアクセスのより一層の推進を目指す。会員機関のニーズを踏まえ、多様なコンテンツへの対応、コンテンツの価値を高めるリポジトリの機能向上に努めるとともに、研究データにも対応するリポジトリ環境の整備を行っていくことで、オープンサイエンスの推進にも寄与する。また、このめまぐるしく変化する環境に対応し、JPCOAR のコミュニティとしての機能を強化し、会員機関全体の底上げを図るとともに、新しい時代を担う中核的な人材の育成に努めていく。

<オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021>

JPCOAR はビジョン実現のため、2019 年度から 2021 年度の 3 年間においては以下のオープンアクセスリポジトリ戦略をもとに活動を行う。

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。

<戦略にもとづく活動>

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
活 動 計 画
1.1 研究データ対応を見据えた国内機関リポジトリの役割、機能要件を明らかにし、研究データを公開する基盤に関する整備を行う。
1.2 国内外の関連機関と連携し、研究データの情報流通促進及び評価に関する活動を行う。
1.3 研究データの管理・共有・公開を促進するため、研究支援に携わる職員の意識、スキルの向上を図り、会員機関における活動を支援する。
実 施 担 当
研究データ作業部会

2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
活 動 計 画
2.1 コンテンツ収集の方策を検討し、リポジトリを活用した学術情報のオープン化に寄与する活動を促進する。
2.2 著作権等のポリシーに関する動向を確認し、学協会等への適切な働き掛けを行う。
2.3 多様なコンテンツの流通を支えるメタデータスキーマである JPCOAR スキーマの普及に努め、国際的な相互運用性を確保するために適切な維持管理を行う。
2.4 外部データとの連携を支える永続的識別子の活用を促進する。
2.5 コンテンツの再利用を可能とするため、著作権者等によるライセンスの付与を促進する。
2.6 国立情報学研究所と連携・協力し、JAIRO Cloud の機能改善と安定的、持続的な運営を行う。
実 施 担 当
コンテンツ流通促進作業部会

3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。	
活 動 計 画	
3.1 コミュニティ活動を支援するため、会員相互の情報交換の場を提供する。 3.2 国内外の最先端の取組、技術や知見を収集し、会員機関へ提供する。 3.3 JAIRO Cloud コミュニティサイト等を通じた、JAIRO Cloud 利用機関へのサポートを行う。また、JAIRO Cloud 移行機関へのサポートも引き続き実施する。 3.4 会員機関におけるコンテンツの充実のための取り組みやポリシーの策定など、各機関が主体的に実施する活動について、コミュニティとして情報共有を図る。 3.5 会員機関が実施する優れた取り組みへの支援を行い、その成果を協会、会員機関へ還元する。	
実 施 担 当	
コミュニティ強化・支援作業部会	

4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。	
活 動 計 画	
4.1 オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材に必要な標準的な技能や知識を明確にする。 4.2 オンラインによる学習を含め、リポジトリ担当者、研究支援に携わる職員など様々な対象・レベルの研修の機会の充実を図る。 4.3 作業部会、タスクフォース、海外派遣などの活動を通じて、オープンアクセス、オープンサイエンスを牽引する中核的人材の育成を支援する。	
実 施 担 当	
人材育成作業部会	

5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。	
活 動 計 画	
5.1 オープンアクセスの推進を図るため、会員機関の拡大を図り、人的及び財政的な活動基盤をより強固なものにしていく。 5.2 協会の活動及びその成果を広く発信し、国内外での協会の認知度向上に努め、海外においては特にアジアでの存在感を高める。 5.3 リポジトリを活用したオープンアクセス及びオープンサイエンスを推進するため、関連する国内の機関や組織等と適切に連携を行っていく。 5.4 国際的な取組みに積極的に関与するため、オープンアクセス、オープンサイエンスを推進している国際的なコミュニティやイニシアティブとの連携を進める。	
実 施 担 当	
運営委員会	

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

2021 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動計画

2021 年 3 月 23 日

総 会 承 認

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
 担当：研究データ作業部会
 - (1) 次期 JAIRO Cloud において研究データ公開を促進する活動を検討・実施する。
 (1.1、1.2) ^注
 - ★ (2) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベースレスキュープロジェクトを実施する。(1.2)
 - ★ (3) 大学 ICT 推進協議会研究データマネジメント部会（AXIES-RDM 部会）と連携して、RDM 事例形成プロジェクトを実施する。(1.2、1.3)
 - ★ (4) これまで開発した研究データ管理に関する教材の利活用の拡大を図るとともに、次なる教材充実に向けて情報収集を進める。(1.3)
2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
 担当：コンテンツ流通促進作業部会
 - ★ (1) ワークフローを考慮したオープンアクセスインフラの機能検証を行う。
 (2.1)(2.2)(2.6)
 - (2) 著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、データ活用の検討を行う。
 (2.2)(2.1)(2.6)
 - (3) JPCOAR スキーマの普及・維持管理を継続して実施するとともに、デジタルアーカイブ対応を検討する。(2.3)(2.4)(2.5)
 - (4) 識別子・ライセンスの調査結果に基づき、普及活動を実施する。(2.1)(2.4)(2.5)
 - ★ (5) 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。(2.6)
3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
 担当：コミュニティ強化・支援作業部会
 - ★ (1) 協会ウェブサイト（日/英）、Facebook、twitter、情報誌 CoCOAR での情報提供及び情報発信を行う。(3.2、3.4)
 - ★ (2) メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。(3.1、3.3)

- ★（３）JPCOAR の活動成果普及、地域単位でのコミュニティ活性化をはかるため、図書館総合展のフォーラム開催及びオンラインを含む地域でのイベントプログラムを実施する。メーリングリスト等コミュニティツールを活用する。（3.1、3.2、3.4、3.5、4.2）
 - （４）会員機関のグッドプラクティスを情報誌やイベント（開催支援を含む）で取り上げて情報共有を図る。（3.5）
4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
- 担当：人材育成作業部会
- （１）研修の編成、内容について継続的に検討・評価を行う。（4.1）
 - （２）基礎研修：開催形態（リアルタイム講義とするか等）について再検討の上、オープンアクセス（機関リポジトリ運営を含む）に関する基礎的なオンライン研修を実施する。（4.2）
 - ★（３）専門研修：関連団体との協働により、学術情報流通に関する各種動向理解のためのオンラインセミナーを実施する。（4.2）
 - （４）専門研修：（状況に鑑み、必要があれば）次期 JAIRO Cloud の機能・設定・操作等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。
- 担当：運営委員会
- ★（１）作業部会間、運営委員会と各作業部会との連絡を密にし、協会の情報収集力、企画力の強化をはかる。
 - ★（２）事務局員の確保を図り、継続的な事務局体制を整備する。（5.1）
 - （３）作業部会員の横断的な活動を組織化し、海外の動向調査等、若手、中堅職員のレベルアップを図り、人的活動基盤を強化する。（4.2、4.3）
 - （４）協会の活動及びその成果を広く発信し、国内外での認知度を向上させる。（3.2、5.2）
 - （５）COAR Annual Meeting 及び COAR Asia OA Meeting 等に参加し、JPCOAR のプレゼンスを高める。（4.3、5.2、5.4）
 - （６）国大図協オープンアクセス委員会、これからの学術情報システム構築検討委員会、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）及び学術情報流通推進委員会（SPARC Japan）との連携体制を強化し、文部科学省、内閣府等の政策の動き及び COAR 等の動きへの適切な対応を行う。（5.3、5.4）

注：「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度」活動計画の項番を示す。以下同じ。

★：2021 年度活動計画の重点項目。

改正会費規程の 2021 年度特例措置

2021 年 3 月 23 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会総会決定

2021 年 4 月 1 日付けで改正オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（以下「改正会費規程」という。）を施行するが、昨今の状況に鑑み、2021 年度に限り、下記のとおり、特例措置を講ずる。なお、改正会費規程自体は予定通り施行し、2022 年度以降は改正会費規程のとりの適用とする。

- (1) 2021 年度の基本会費（年額）の引き上げ幅の 5 割減額
- (2) 2021 年度の JAIRO Cloud 容量拡大に対応する特別料金（年額）を半額に設定

記

1. 基本会費（年額）の引き上げ幅の 5 割減額

- (1) 2019 年度総会（2020 年 3 月 5 日～16 日）において、専任の事務局員派遣を確保するための出向元への事務協力費に加え、JPCOAR としての事務補佐員の人件費を確保するため、基本会費（年額）を一律 30% 引上げとする改正が承認され、2021 年 4 月 1 日付施行予定である。
- (2) しかし、新型コロナウイルス感染拡大への対応により、JPCOAR 全体が活動形態の急激な変更を迫られていること、また、感染流行による図書館等会員機関への影響を考慮し、2021 年度限りの特例措置として、一律 15% 引上げ（引き上げ幅の 5 割減額）とする。
- (3) これによる 2021 年度基本会費（年額）は別紙の表 1 のとおりとなる。

2. JAIRO Cloud 容量拡大に対応する特別料金（年額）を半額に設定

- (1) 2018 年度総会（2019 年 3 月 13 日）において、JAIRO Cloud 容量拡大に対応する特別料金の導入に伴う改正が承認された。翌 2019 年度、次期 JAIRO Cloud 移行スケジュール変更に伴い、臨時総会（メール審議）「オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程の改正」が開催され、2018 年度総会で改正された会費規程の施行を 2021 年 4 月 1 日付とすることが承認された（2019 年 12 月 5 日）。
- (2) 特別料金の導入は、基本 JAIRO Cloud サービスに加えて、100GB 超の登録容量の特別利用申請を認めるものであり、特別料金の規定内容は以下のとおりである。
 - ・ 特別利用申請に基づく料金請求は年額であり、基本 JAIRO Cloud サービスと異なり、年度途中の利用開始時期による減額は行わない。
 - ・ なお、同一年度内での特別料金区分の変更により、新しい区分の特別料金と請求済みの特別料金との差額が生じる場合は、別途差額を請求する。

- (3) 一方、次期 JAIRO Cloud への移行は「次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行スケジュール再変更について（通知）（2020 年 12 月 7 日付国情研コ第 112 号）」(JPCOAR 運営委員会委員長名での会員機関への通知は 2020 年 12 月 8 日付) のとおり、先行移行機関以外の利用機関については 2021 年度に順次実施する計画となった。
- (4) 特別利用は「文献を中心としたリポジトリのほかに、研究データリポジトリやデジタルアーカイブとして JC を利用する場合等を想定し」設定されたもので、必ずしも次期 JAIRO Cloud を前提とはしていないが、次期 JAIRO Cloud 環境において、より十分な効果が期待されるものである。移行計画の遅延により、多数の機関において、次期 JAIRO Cloud の利用開始が年度途中となることから、2021 年度限りの特例措置として、改正会費規程第 3 条三号に定める JAIRO Cloud 特別料金を申請した場合、会費規程に規定する JAIRO Cloud 特別料金（年額）の半額を請求金額とする。
- (5) これによる 2021 年度の JAIRO Cloud 特別料金（年額）は別紙の表 3 のとおりとなる。

1. オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第3条第1号の基本会費は、2021年度特例措置として次の表1のとおりとする。

表1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	<u>23,000</u> 円
B	601 ～ 1,100 人	<u>46,000</u> 円
C	1,101 人～	<u>69,000</u> 円

2. オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第3条第3号のJAIRO Cloud特別料金は、登録容量に応じ、2021年度特例措置として次の表3のとおりとする。

表3 JAIRO Cloud 特別料金

区分	登録容量	JAIRO Cloud 特別料金 (税抜き・年額)
S1	100GB 超 200GB 以下	<u>10,000</u> 円
S2	200GB 超 400GB 以下	<u>20,000</u> 円
S3	400GB 超 1,000GB(1TB)以下	<u>50,000</u> 円
S4～	1TB 超 2TB 以下	<u>100,000</u> 円
	登録容量が 1TB を超える場合は、1TB を 1 区分として、1TB あたりの料金を <u>50,000</u> 円として算出する。	

- 1) 本表における「区分」とは、当該の会員が利用する1つのJAIRO Cloud環境当たりの登録容量によるものとする。

通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則

〔 2021年2月8日 〕
制 定

(目的)

第1条 この細則は、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（平成28年7月27日制定）（以下「会則」という。）第10条1項の規定に基づく通常総会を、電子的な通信並びに記録手段（以下「電子的手段」という。）を用いて開催し、会員による適正な議決権行使（会員が議案に対する賛否の意志を表明することをいう。）を確保するために必要な事項を定めることを目的とする。

(招集)

第2条 会長は、電子的手段を用い、または電子的手段と集合形式とを併用し、通常総会を招集することができる。

2 電子的手段には、オンライン会議システム、オンライン投票システム、電子メール等を含み、会長が、会員が一堂に会する通常総会と同等の十分な審議ができると判断した適切な手段によることができる。

3 会長は、本細則により通常総会を招集する場合には、次に掲げる事項を定めなければならない。

一 通常総会の開催方法

二 通常総会の開催日時

三 議案及び議案説明

四 通常総会における会員の議決権行使の期間と方法

五 通常総会に出席しない会員が、電子的手段によって事前に議決権を行使することができることとする場合は、その期間と方法

4 会長は、通常総会開催日の2週間前までに、会員に対して、前項の内容を含む通知を発し、通常総会を招集しなければならない。

(定足数)

第3条 会則第12条は、電子的手段による通常総会において準用する。この場合において、電子的手段による議決権行使も併せて出席とみなすものとする。

2 委任は、議決権の行使を事前に代理人に委ねるものであり、委任状の提出又はオンライン投票システムでの委任の意思表示と記録をもって出席に代えることができる。ただし、代理人には議長のみを指名できるものとする。

(決議)

第4条 通常総会の決議は、別段の定めがある場合を除き、第3条に規定する出席会員（以下「出席会員」という。）の議決の過半数をもって行う。

2 出席会員が、議決権行使の期間中に複数回の委任又は議決権行使を行った場合は、同期間の最終の議決権の行使をもって確定とする。

3 会長は、通常総会終了後、速やかに会員に決議を通知しなければならない。

4 前項にかかわらず、会長は、計数等議決に時間を要すると判断した場合は、後日、会員に決議を通知することができる。

(議決権行使期間の延長)

第5条 定足数に満たないことにより通常総会が成立しなかった場合は、それまでの議決権行使を有効とし、会長は、委任又は議決権の行使を行わなかった会員に対して、期間を定めて、委任又は議決権行使の記録の提出を促すことができ、その提出結果を、定足数及び第4条の議決に加えるものとする。ただし、延長は1回とし、最大10日とする。

2 会長は、前項期間終了後、議決を行い、会員に決議を通知する。

附 則

この細則は、2021年2月8日から施行する。

JAIRO Cloudを共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則

（ 2 0 2 1 年 2 月 8 日
制 定 ）

（目的）

第1条 この細則は、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（平成28年7月27日制定）（以下「会則」という。）第16条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（平成28年7月27日制定、2021年4月1日施行）（以下「会費規程」という。）に定めるもののほか、会員がJAIRO Cloudサービスを共同リポジトリとして利用する場合の会費等について必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

第2条 本細則における用語の定義は、会則及び会費規程に定義するもののほか、次のとおりとする。

- 一 共同リポジトリとは、複数の会員が共同してJAIRO Cloud環境を構築し、リポジトリを運用するものをいう。
- 二 構成会員とは、同一の共同リポジトリを構築・運用する会員をいう。

（JAIRO Cloudの利用申請）

第3条 共同リポジトリ構築のためのJAIRO Cloudの利用申請にあたっては、構成会員のうち一つを代表として申請する。

（基本会費）

第4条 構成会員の基本会費は、会費規程第4条の規定により構成会員ごとに請求する。
ただし、会則第5条三号に定める部局等（以下「部局等」という。）の基本会費は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。

（JAIRO Cloud利用料金等）

第5条 JAIRO Cloud利用料金及び特別料金を請求する。会費規程第5条及び第6条の規定により構成会員ごとに請求する。ただし、部局等のJAIRO Cloud利用料金は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。

（JPCOAR会費納入）

第6条 基本会費及びJAIRO Cloud利用料金は、構成会員ごとに納入するものとする。

附 則

- 1 この細則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 当分の間は、コンテンツ及びメタデータの登録等を行う共同リポジトリ等をJAIRO

Cloud利用料金及び特別料金の対象とし、メタデータのための登録等を行う場合は対象としない。ただし、メタデータのための登録等を行う場合については、特別JCサービス及び複数のJAIRO Cloud利用申請は認めない。

次期中期戦略タスクフォース設置に関する申合せ

2021年3月29日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第8条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置する次期中期戦略タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第2条 協会のオープンアクセスリポジトリ戦略2019～2021年度の終了に伴い、次期中期戦略の基本的な方針や取り扱い等を、効率的・集中的に審議し、運営委員会に報告することを目的とする。

(構成員)

第3条 TFは次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
- 三 その他、運営委員会が必要と認められた者

2 TFに主査を置く。主査は、前項第1号の委員のうちの一をもって充てる。

3 主査及びTF作業部会員（以下「作業部会員」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。

4 作業部会員の任期は、附則に規定する失効までの期間とする。

5 主査は、必要な場合は、作業部会員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(TFの運営)

第4条 TFの活動方針及び活動計画は、TFの審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、運営委員会においてTFの活動状況を報告するものとする。

3 その他、TFの運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

(この申合せの失効)

2 この申合せは、2022年3月31日限り、その効力を失う。

次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース設置に関する申合せ

2021 年 3 月 2 9 日

2022 年 1 月 2 6 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第 1 条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第 8 条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置する次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第 2 条 協会が国立情報学研究所と共同運営する JAIRO Cloud について、次期 JAIRO Cloud への移行作業に伴い、会員間並びに JAIRO Cloud 利用機関間の相互支援を強化することを目的とする。

(構成員)

第 3 条 TF は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
- 三 その他、運営委員会が必要と認められた者

2 TF に主査を置く。主査は、前項第 1 号の委員のうちの一をもって充てる。

3 主査及び TF 作業部会員（以下「作業部会員」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。

4 作業部会員の任期は、附則に規定する失効までの期間とする。

5 主査は、必要な場合は、作業部会員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(作業部会の運営)

第 4 条 TF の活動方針及び活動計画は、TF の審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、運営委員会において TF の活動状況を報告するものとする。

3 その他、TF の運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

(この申合せの失効)

2 この申合せは、2023 年 3 月 31 日限り、その効力を失う。

附 則（2022 年 1 月 2 6 日）

（施行期日）

この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

COAR community framework 検討タスクフォース設置に関する申合せ

2021 年 6 月 4 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第 1 条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第 8 条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置する COAR community framework 検討タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第 2 条 COAR が作成したリポジトリのフレームワーク “COAR Community Framework for Good Practices in Repositories” を用いて国内の機関リポジトリを評価・分析し、課題の抽出を行い、抽出された課題に対して、ポリシー及びシステムの両面から解決策を検討し、運営委員会に報告・提案することを目的とする。

(構成員)

第 3 条 TF は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
- 三 その他、運営委員会が必要と認められた者

2 TF に主査を置く。主査は、前項第 1 号の委員のうちの一をもって充てる。

3 主査及び TF 作業部会員（以下「作業部会員」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。

4 作業部会員の任期は、附則に規定する失効までの期間とする。

5 主査は、必要な場合は、作業部会員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(TF の運営)

第 4 条 TF の活動方針及び活動計画は、TF の審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、運営委員会において TF の活動状況を報告するものとする。

3 その他、TF の運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

(この申合せの失効)

- 2 この申合せは、2022 年 3 月 31 日限り、その効力を失う。

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第6条に係る申合せ

2022年1月26日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（以下「規程」という。）第6条に係る「申請」については、次のとおり取り扱うものとする。なお、1から3の適用は、2022年4月から当分の間とする。

1. 会員からの申請の受付は、特別な理由がある場合を除き、年度を通じて実施する。ただし、当該年度内の申請受理は、11月末日までの申請受付を経て、12月までの受理・決裁とする。12月～3月申請受付分は、翌年度に受理するものとする。
2. 会員から申請された区分は、必要に応じて協議・調整の上、決定する。
3. 会員は、JAIRO Cloud 特別料金の区分 S4（登録容量 1TB 超 2TB 以下）以上の登録容量の区分を申請する場合は、申請前に希望する区分情報を JPCOAR 事務局 (jpcoar@nii.ac.jp) に、可能な範囲で連絡するものとする。
4. JAIRO Cloud(WEKO3)への本番移行時点において、JAIRO Cloud 利用環境の使用容量が登録容量を超える場合（基本 JC サービスでの 100GB を超える場合を含む）は、当該 JAIRO Cloud 利用環境の使用容量が登録容量を超えない設定を経過措置として適用するものとする。当該 JAIRO Cloud 利用会員は、JPCOAR 事務局からの連絡に応じて、速やかに使用容量を上回る区分の特別 JC サービスの申請を行うか、又は使用容量を規定の登録容量以下とし、適切な取扱いとするものとする。

以上